42 高収益作物への転換と産地形成までの取組

【長崎県・雲仙市】

○ ばれいしょ価格の低迷と高齢化で労力負担が少なく価格が安定しているブロッコリーへの転換。
○ 区画整理と畑かん施設を併せて整備することにより、農作業の労力負担軽減や生産性向上により栽培面積が増加。
○ 中山間地域所得向上支援事業により鳥獣害防護柵を地域一体的に設置し、鳥獣被害を受けにくい集落環境の実現。

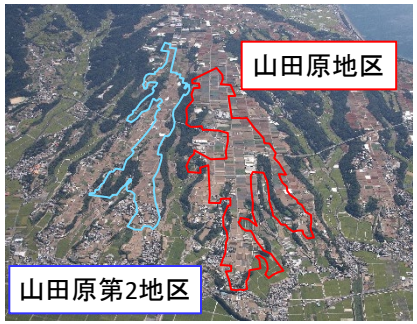
取 組 前

ばれいしょ産地維持の懸念

- ばれいしょの価格低迷及び高齢化に伴い、産地の維持の懸念
- 農地は狭小・不整形であり道路も未整備のため、大型農業機械の導入が困難。加えて、畑地かんがい施設も未整備であり、収益性の高い作物の導入が困難な状況

整備前（山田原第２地区）

- イノシシによる農作物の被害が拡大



取組内容

区画整理、畑かん施設の整備

【完了地区】
県営畑地帯総合整備事業
　山田原地区(H9～21)
【継続地区】
県営畑地帯総合整備事業
　山田原第２地区(H24～R3予定)

山田原地区整備済地

- 氷詰め低温流通施設を活用した共同選別出荷体制を整備
- 総合集出荷場の再編・整備

強い農業づくり交付金（H22～23）
　製氷機：８ｔ
　貯氷庫：12　ｔ
産地パワーアップ事業（H28）
　集出荷貯蔵施設：１式

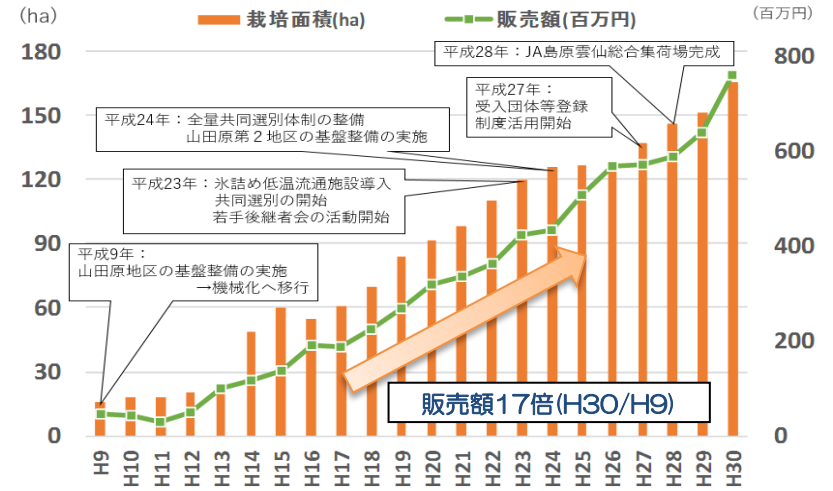
鳥獣害防護柵の設置

中山間地域所得向上支援事業（H29）
　鳥獣防護柵　L=15km

取 組 後

雲仙ブロッコリー産地の拡大による販売額の増加

	H10	H15	H20	H25	H30	H30/H10
部会員数(戸)	15	38	39	36	52	347%
栽培面積(ha)	18.0	59.8	98.0	126.8	166.8	927%
出荷量(t)	204	553	947	1311	1948	955%
販売額(百万円)	44	118	320	507	760	1727%



【市場の信頼獲得】
安定供給と収穫から出荷まで徹底した品質管理により、ブロッコリー単価が上昇(雲仙ブランド認証)
H22：312円/kg→H30：390円/kg（H30/H22：125%）

【栽培面積増加】
区画整理と畑かん施設整備により栽培面積の増加が図られた。
　H9栽培面積：18ha→H30：167ha(149ha増)

【農作物被害額の低減】
鳥獣害防護柵の設置等による被害減。
柵設置前は約2,000千円/年の被害を受けていたが現在被害なし。

◆ 誰がどのように・・・？

課題解決のため、地域の農家やJA、市、県等が話し合いを重ね、軽量で価格安定しているブロッコリーへの転換を推進

◆ 誰がどのように・・・？

吾妻町・愛野町・千々石町の3町が設立した排水対策協議会（H7年設立）において、基盤整備の必要性が提案され、野菜部会を中心に合意形成

平成9年の基盤整備の開始と共に野菜部会メンバーが基盤整備をきっかけに定植作業の機械化に向けて、作業体系確立を推進（セル苗育苗・半自動移植機等の導入）

きっかけ

ばれいしょの価格低迷と高齢化に伴う労力負担等

Step 1 （S50年代後半～）

作付け品目の転換

○ 地域の農家やJA等関係機関が話し合い、高齢者の労力負担軽減につながる軽量野菜（ブロッコリー）を導入。

Step 2 （H９～21）

基盤整備の実施

山田原地区　（99ha）

・区画整理により、ほ場の大区画化や道路を整備

・畑かん施設の整備により適時適量のかん水が可能に

Step 3 （H９～）

ブロッコリーの拡大

○ 機械化による労力の省力化や生産コストの低減、作物の品質向上、収量増が図られ、基盤整備が終わったほ場で次々とブロッコリーへの転換が進み栽培面積が飛躍的に増加。

強い農業づくり交付金を活用

Step 4 （H22.23）

氷冷施設の整備

○ 雲仙ブロッコリー部会からの要望を受け、強い農業づくり交付金を活用し、氷詰め低温流通施設を活用した共同選別体制を整備。

○ 氷詰め出荷と全量共同選別で鮮度保持の向上。

○ 品質の安定化、均一化で市場から高評価。

Step 5 （H24～）

基盤整備の実施

○ 氷詰め低温流通施設の整備によって、ブロッコリーの鮮度が長時間保たれることで販路が拡大するとともに、山田原地区の成功（機械の大型化・作業の省力化・農地の集約化等）により、周辺地域で基盤整備の機運が高まり、山田原地区と重複する農家が中心となり、新たに山田原第2地区として区画整理及び畑かん施設の整備を実施。

山田原第２地区　A=55ha

強い農業づくり交付金を活用

Step 6 （H28）

出荷体制の強化

○ 基盤整備の進捗とともに生産量が大きく増加しているブロッコリーや他の野菜の選別、出荷作業の効率化と搬入時間短縮のため、集出荷貯蔵施設の再編整備。

○ 作型分散による周年安定生産と真空予冷や発砲容器での氷詰め出荷等徹底した品質管理により市場で高評価。

Step 7 （H29）

鳥獣害防護柵設置

○ 中山間地域所得向上支援事業等によりWM（ワイヤーメッシュ）柵　L=15kmを設置。

鳥獣被害を受けにくい集落環境の実現と、多面的機能支払いによる集落ぐるみでの柵等の維持管理を行うことで鳥獣害対策のコスト削減を図る。

【農作物被害額の低減】

柵設置により、イノシシによる食害を解消。

（設置前2,000千円/年の被害）

今後の展望

将来に向けて

☑ 先端技術の導入によるさらなる作業の省力化に向けての検討（ドローンによる農薬散布等）

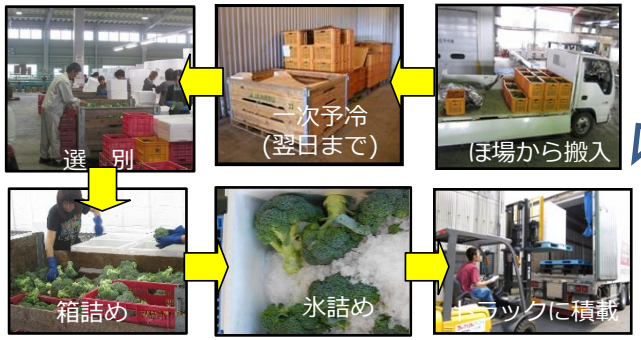
☑ 基盤整備実施地区における生産拡大の推進

（愛津原地区・桃山田地区等）

☆ブロッコリーの販売拡大に向けて

ブロッコリーの生産は増えたが、収益増につなげるには品質安定化、均一化が必要との考えの下、JAのブロッコリー部会が低温流通施設等を導入した結果、市場から高評価を得、単価、販売額が増加。

氷詰め低温流通施設を活用した共同選別出荷の流れ



H28 JA島原雲仙総合集荷場